

日本英学史学会中国・四国支部

ニューズレター

No. 103

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

<エッセイ>

発信する宮島の英学

馬本 勉

明治期以降に宮島を訪れ、その様子を英語で著した出版物がいくつかある。例えば、大森貝塚を発見したエドワード・モース (Edward Sylvester Morse, 1838-1925) の *Japan Day by Day* (1917, 『日本その日その日』), ワシントンで友好の桜植樹に尽力したエリザ・シドモア (Eliza Ruhamah Scidmore, 1856-1928) の *Jinrikisha Days in Japan* (2nd ed. 1902, 『シドモア日本紀行』), 英国の写真家ハーバート・ポンティング (Herbert George Ponting, 1870-1935) の *In Lotus-Land Japan* (1910, 『英国人写真家の見た明治日本』) などだ。彼らの見た宮島については、県立広島大学宮島学センター編『宮島学』(2014)において、天野みゆきが「外国人が見た明治・大正時代の宮島」と題する論考を発表している。

上の例はいずれも英米人による発信であるが、外国人向けに宮島から発信された英語情報にはどのようなものがあったのだろうか。調べを進めるうちに、宮島ホテルが出したパンフレットに行き着いた。厳島神社世界遺産 20 周年記念事業 (宮島学センター連携企画展示・宮島歴史民俗資料館企画展)「世界遺産をつたえる—厳島神社と石見銀山、原爆ドームと宮島ホテル—」資料によると、宮島ホテルは明治 45 (1912)年にミカドホテルを引き継いで株式会社として設立され、大正 6 (1917)年に再建された本館は広島県物産陳列館 (現在の原爆ドーム) と同じジャン・レツルによって設計された。筆者が最近入手した 2 点のパンフレット「宮島ホテル御案内」「A Sacred-Island Miyajima」はいずれも発行年は不明だが、ホテルは洋風の本館と点在する和風のバンガローからなることが記されている。この点は、大正 7 年に宮島ホテルから発行された *A Short Guide to Miyajima and Neighbourhood* (インターネットアーカイブ <https://archive.org/> から閲覧可能) と同様である。(下の図は「宮島ホテル御案内」パンフレットの厳島案内絵図より。神社西側 (右手) に宮島ホテルの表示が見える。)

宮島ホテルは第二次世界大戦中に営業を終え、戦後は、進駐した英連邦軍 (British Commonwealth Occupation Force: BCOF) の保養所として、また



Royal Military College の日本校として用いられた。オーストラリア戦争記念館のウェブサイト (<https://www.awm.gov.au/>) には宮島で撮ったとされる学生の集合写真がある。残念ながら建物は昭和 27 (1952)年に焼失し、宮島ホテルの姿は写真で伝わるのみである。

さて、前身のミカドホテルは英語でどのような発信を行っていたのだろうか。最近になって、*Some Information Concerning Miyajima* という英文冊子 (ミカドホテル発行、明治 41 年、全 17 ページ) が手に入った。冒頭に“The Mikado Hotel in Miyajima is the finest foreign hotel between Shimonoseki and Kobe.”とある。奥付以外はすべて英文で、ホテルの紹介、交通案内、宮島の名所や行事、周辺地の観光案内と続く。筆者は数年前から宮島観光学入門 (英語) という授業を担当しているが、宮島の歴史を紹介する英文のお手本として活用できそうだ。そして明治期から英語で外国人をもてなした宮島ホテルの全容を解明する一助になればと期待は膨らむ。

(副支部長・事務局長／県立広島大学)

日本英学史学会 中国・四国支部

令和4年度 総会・第1回（通算85回）研究例会のご案内

令和4年度支部総会，及び第1回（通算第85回）支部研究例会は，現在のコロナ感染状況を鑑み，全面オンラインで開催いたします（ハイフレックス方式ではありません）。皆様ふるってご参加くださいますよう，よろしく願いいたします。研究例会のあとには，オンライン懇親会を予定しております。こちらの方へも多数のご参加をお待ちしております。

日 時： 2022年5月28日（土） 13:00 オンライン受付開始
方 法： オンライン会議システム Zoom による開催
参加費： 会員，非会員とも無料

支部総会（13:20～13:50）

議長選出，前年度活動報告・会計報告・会計監査報告，新年度活動計画，他

開会行事（14:00～14:05） 支部長挨拶

研究発表（14:05～15:15）

「西日本の旧制中学校に勤務した外国人英語講師の日本研究」

保坂 芳男（拓殖大学）

【概要】発表者は20年間以上にわたり，全国の旧制中学の外国人講師に関する調査を行っている。その最終目的は旧制中学史上での外国人講師採用の効果を検証することにある。その手段の一つが，旧制中学で英語を教えた外国人講師のその後のキャリアを明らかにすることである。今回は，西日本の旧制中学校に勤務した外国人講師の日本研究に焦点を当てる。その代表は言うまでもなく L. Hearn である。他にも京都中学に勤務した R. Ponsonby や滋賀県に勤務した W. M. Vories 他を紹介したい。
--

聴衆参加型座談会（15:30～16:40）

「ラジオと英語」

コーディネータ 河村 和也・馬本 勉（県立広島大学）

【概要】2021年度後半，連続テレビ小説とタイアップした英語講座がラジオから流れ，英語関係者の間で話題となった。自身の英語学習を振り返り，ラジオ講座の思い出に浸った支部会員も多いことと思われる。今回は，そうした会員それぞれの，当時の教材や講師陣の思い出を軸に，ラジオ英語番組が聴取者（英語学習者）に与えた影響について議論を深めたい。オンライン開催ならではの「参加型」座談会にたくさんの思い出を持ち寄っていただきたい。
--

閉会行事（16:45～16:50） 副支部長挨拶

懇親会（17:30～19:00） オンラインで開催（参加自由。飲み物や食事は各自準備）

令和4年度 総会・第1回（通算85回）研究例会オンライン参加の申し込みについて

5月25日(水)までに、電子メールにてお申込みください。(メールアドレス eigaku@tom.edisc.jp)
後日、研究例会参加用のURL（Zoom 接続用アドレス）をお送りします。

事務局からのお知らせ

◇会員登録情報の確認について

2022年度会員名簿発行のため、皆様の登録情報確認票を個別にお届けします。ご確認の上、変更のある場合は事務局までご連絡ください。

◇『英學史論叢』第25号の発行について

2022年5月28日付で発行を予定しています。支部総会・第1回研究例会終了後、郵送にてお届けします。

◇年会費の納入について

2022年度会費（一般3,000円、学生2,000円）をご納入くださいますよう、どうぞよろしくお願ひします。（振込手数料は各自でご負担ください。料金が改定されていますのでご注意ください。）

ゆうちょ銀行「振替払込用紙」を用いる場合
（口座番号） 01360-9-43877
（加入者名称） 日本英学史学会中国・四国支部

ゆうちょ銀行へ他の金融機関から振込む場合
（店名） 一三九（イサキユウ）店（139）
（口座番号） 当座 0043877
（加入者名称） 日本英学史学会中国・四国支部

◇2022年度第2回研究例会発表者募集

2022年度第2回研究例会発表者を募集します。詳しくは『英學史論叢』およびウェブサイトに掲載の研究例会規程を参照してください。

開催日：2022年12月10日（第2土曜日）予定

申込期間：2022年9月10日～10月10日

◇新入会員

熊谷 允岐（くまがい まさき） 茨城大学（非常勤講師）
研究テーマ：日本の英語語彙学習教材史

英学史情報フォルダ

◇日本英語教育史学会第 38 回全国大会（オンライン）

2022 年 5 月 14 日（土）・15 日（日）開催（詳細はウェブサイトを参照 <http://hiset.jp/>）

記念講演「テレビ英語会話放送の歴史的経緯：内容・提示技法の開拓」講師：田崎清忠

研究発表 8 件（本支部会員による発表は次の 3 件）

- ・『官許 英和通語』の系譜：明治中期以降における英学書への影響 熊谷允岐（茨城大学）
- ・英語カードの研究：教材教具史の一つとして 馬本 勉（県立広島大学）
- ・軽井沢夏期大学における英語講習会 江利川春雄（和歌山大学名誉教授）

参加型シンポジウム「今、あらためて問う、英語教育の意義」

◇「日本英学史学会報」No.153

2022 年 5 月 1 日、日本英学史学会発行。会長をおつとめであった楠家重敏先生の急逝を受け、本支部・竹中龍範支部長による「楠家重敏会長の急逝を悼んで」、東日本支部・保坂芳男支部長（本支部の理事でもある）による「巨星、墮つ！」が掲載されています。

聴衆参加型座談会「ラジオと英語」に資料や思い出をお持ち寄りください

来る研究例会では、初めての試みとして「聴衆参加型座談会」を行います。p.2 の概要に記した通り、ぜひ皆様の思い出をお持ち寄りください。印象に残る内容、講師、ゲストの思い出など、大いに語り合いましょう。また、当時のテキストやカセットテープ、ラジカセの実物や写真などもあれば、話も弾むと思います。どうぞよろしくお願ひします。

日本英学史学会中国・四国支部ニューズレター No.103 2022 年 5 月 20 日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部（代表 竹中 龍範）

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 県立広島大学 馬本研究室内

電話: 0824-74-1725（研究室直通）

e-mail: eigaku@tom.edisc.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部